

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 花尾 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

花尾 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率をわずかに上回っていた。 ・書く能力、読む能力が上ってきた。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・手紙の書き方を理解して書く問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・文脈に則して漢字を正しく書く問題の正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・効果的な資料を作成し、活用する問題では正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・方程式を解く場面において等式の性質の用いかたについて答える問題の正答率が低かった。	

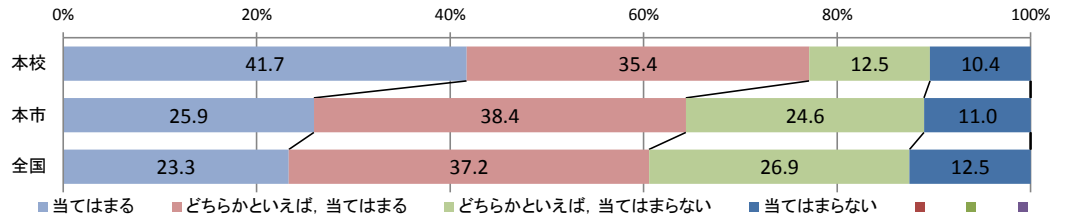
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・与えられた情報から必要な情報を選択し、的確な処理をする問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・理由を説明する問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	・状況を推論する問題の正答率が低かった。	

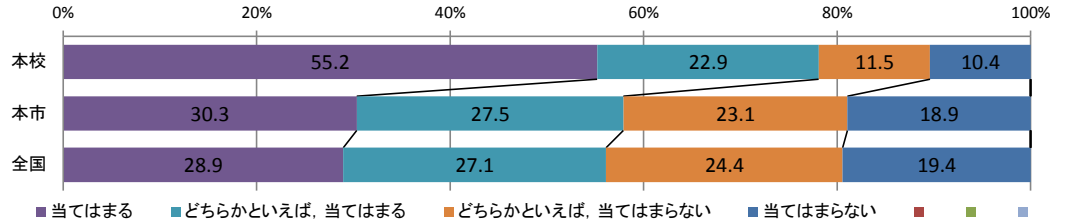
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

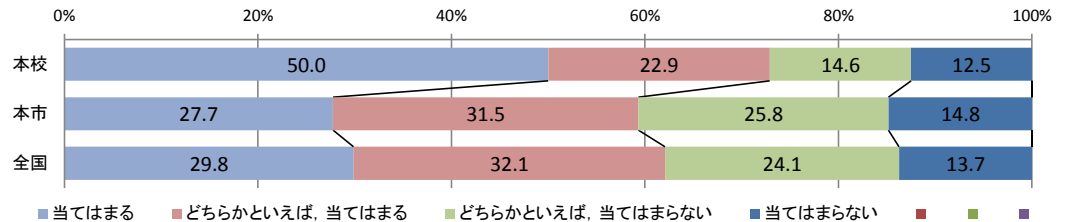
48
国語の勉強は好きですか。



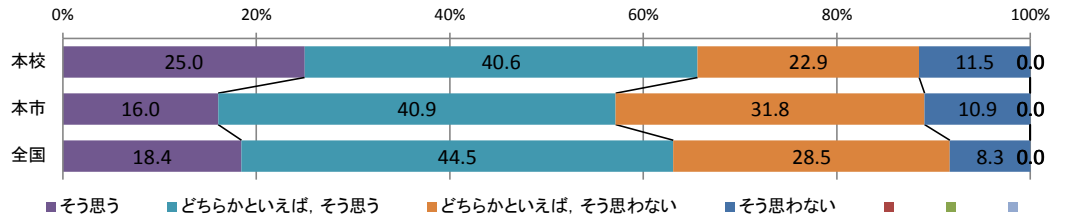
58
数学の勉強は好きですか。



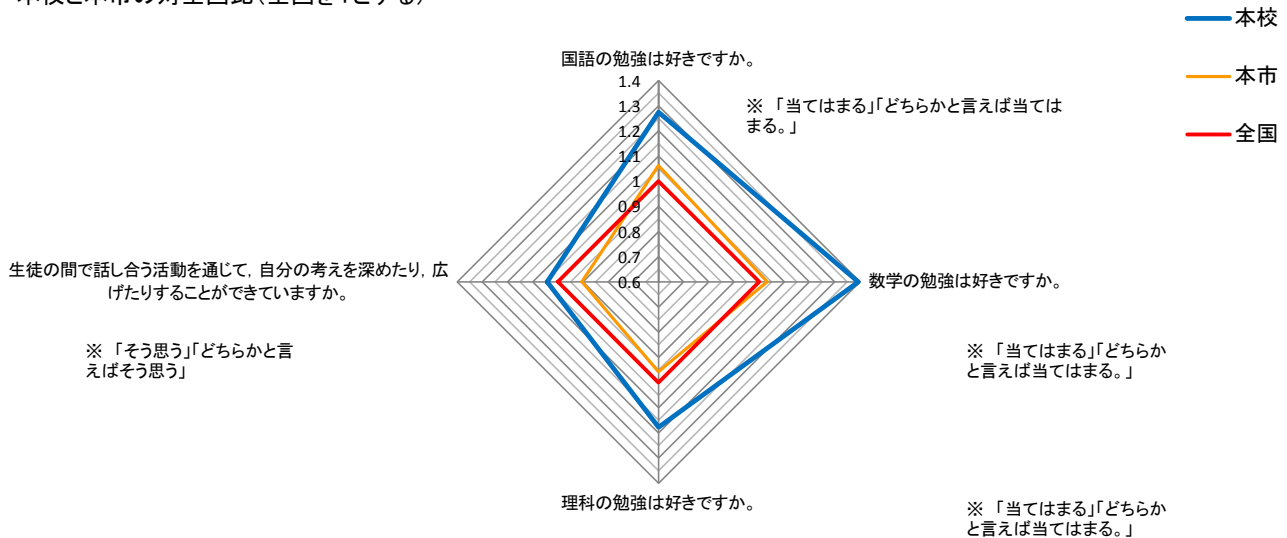
69
理科の勉強は好きですか。



46
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・国語、数学、理科ともに勉強が好きと回答した生徒が7割以上に上っている。だが、苦手を感じている生徒も2割強いることもしっかりと受け止め、今後の取り組みを検討していくことが大切である。

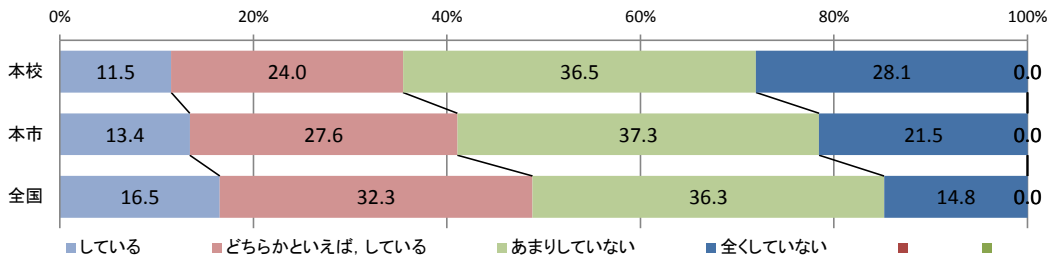
・基礎・基本の定着が図られている。

・生徒間の言語活動については、日常的に生徒同士の仲が良く、他の意見を聞き入れ、また自分の考えを述べることができる環境が整っている。授業においても他の意見に耳を傾けることができる。

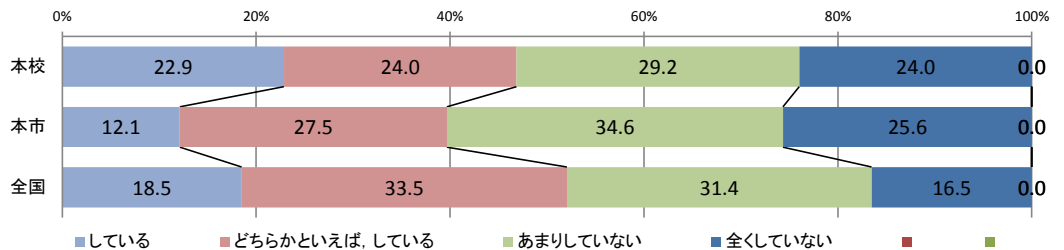
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

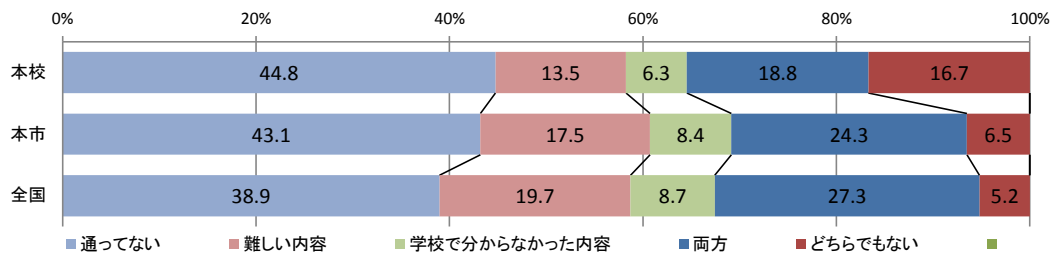
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



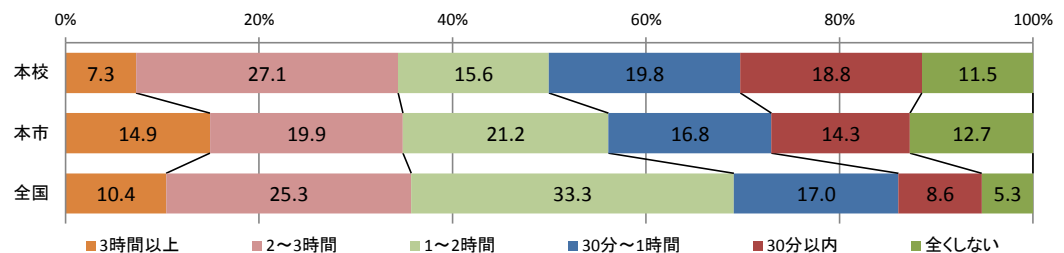
23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



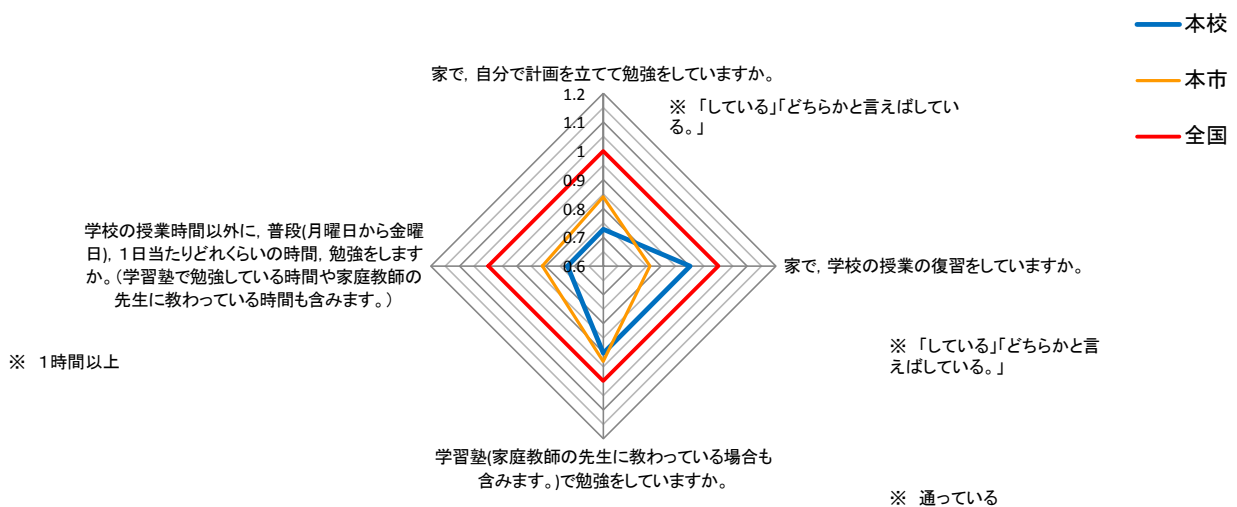
15
学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含まれます。)で勉強をしていますか。



13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

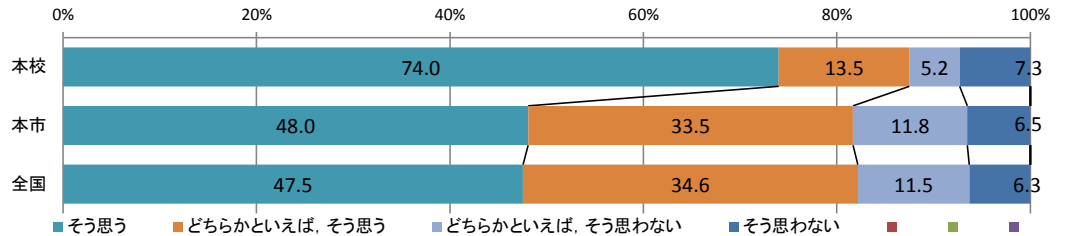


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

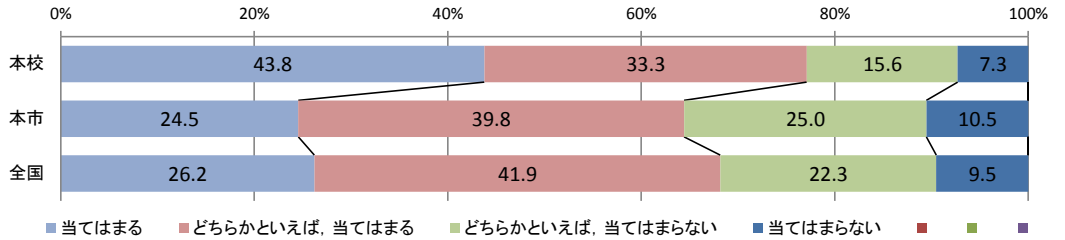
・ 学習塾や家庭教師で勉強をしている生徒の割合は、全国平均を下回っている。学習時間についても一般的に「短い」、又は「しない」と回答した生徒が割近くであり、家庭学習の充実がのぞまれる。また家庭学習の中で、一日の授業で習った内容を復習する習慣がある生徒も少なく、家庭学習の仕方について指導していく必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

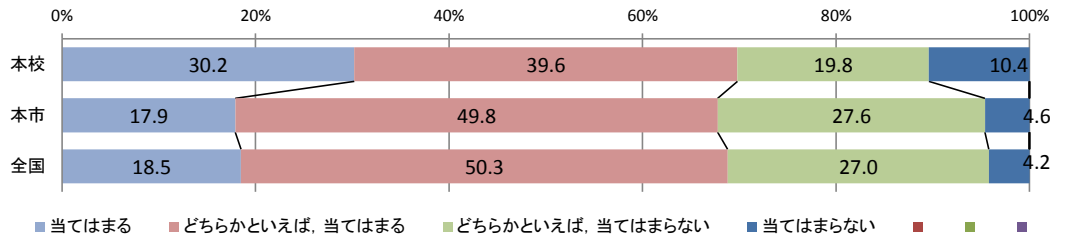
24
学校に行くのは楽しいと思いませんか。



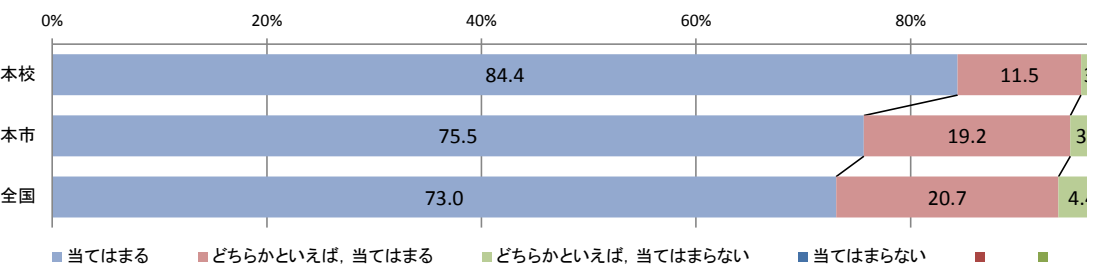
6
自分には、よいところがあると思いませんか。



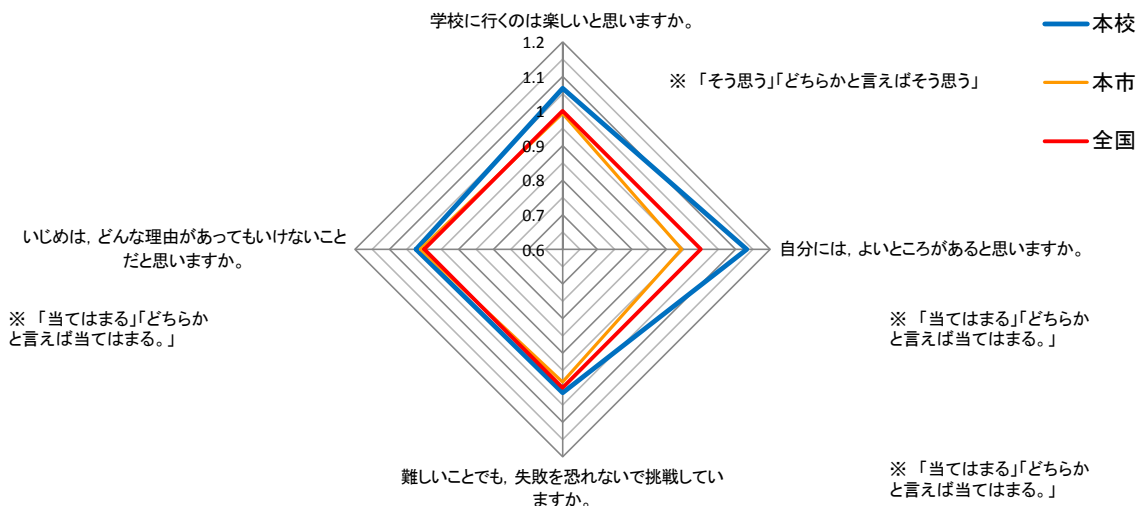
5
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。



34
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

- ・ 学校に行くことを楽しみとしている生徒が9割近くに上る反面、1割弱の生徒が「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答している。
- ・ 「自分にはよいところがある」という問いについて、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が高い。「そうではない」と回答した生徒も2割弱もいることをしっかりと考慮し、自尊心を高められるような取り組みを進めていきたい。
- ・ ほぼ全員がいじめについて、いけないことだと認識している。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎ 朝自習を5教科(国、数、社、理、英)で行い、教科時間、総合的な学習の時間などにおいて、「朝自習テスト」を実施し、基礎学力の定着を図る。
- ◎ PTAや地域の方々の協力をもとに3年生の「ひまわり学習塾」と1, 2年生の「花尾塾」を開き、希望生徒を対象に週2回実施し、3年生の英・数学における基礎、基本の徹底、1, 2年生の基礎学力の定着を図っている。
- ◎ 朝読書の推進、教科による学校図書館の利用を積極的に行い、読書活動を活発にするとともに読みとる力を育成する。教科において課題について「考える」、「書く」、「話し合う」、「発表する」活動を重視し、思考力・表現力を高めることを通して言葉の力を育てる。
- ◎ 特設時間を設けて過去問題・プレテストを行い、充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・各教科において宿題や課題を生徒に課し、教科担任と学級担任が連携して提出の徹底を図る。
 - ・考査前に家庭学習計画を検討させ、毎日学級担任が確認指導を行う。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の方法、家庭学習時間の確立など家庭学習について指導を行う。さらに家庭学習マイスター賞への応募を図る。
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等に関する保護者への周知
 - ・学校便りや学校HPを通して結果分析を伝えるとともに、家庭教育学級や学年懇談会等で内容を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。